

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点が含まれた事業所独自の理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に唱和したり、毎日の生活の中で職員同士お互いに言葉使いや態度等注意しあったりし、理念の実践に日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の壁に理念、運営方針を掲示しており、入居時に本人や家族に説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事の時は近隣から入居された利用者の友人、家族を通じて参加をお願いしたり、職員が近隣を直接訪ね、声をかけている。また、普段から、挨拶をするように心がけている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会に加入し、事業所便りを回覧している。地域の盆踊り、花火大会、バザーへの参加や事業所内での夏祭りや餅つき等、近隣の人々との交流を行っている。今年度より近隣の理髪店に散髪をお願いしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて民生委員等に困っている高齢者の問題がないかを聞いている。又、近隣の方からも相談も受け付け、対応した。又、地域の廃品回収に積極的に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で考え、考慮して作成した。改善点は運営推進会議委員と全職員に配布、報告しミーティングで検討した。前々回の改善点も評価を活かし、実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。現在の運営状況や今後の活動計画、外部評価の結果等を報告し、委員からの意見、要望、質問等をもらっている。地域に事業所便りを回覧したり、花火大会を見学する等、委員からの意見を取り入れ、運営や介護サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は積極的に行政担当を訪ねて話をする等、意識的に接触する機会を作っている。事業所の状況報告や介護相談員の受け入れを行う等、行政に対して働きかけ、また行政とともにサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部から講師を招いて制度に関する勉強会を開催し、全職員の制度に関する周知を図っている。又、研修時のパンフレットを玄関におき、自由に取っていただけるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権教育の研修で学んでいる。また虐待についての報道等はミーティング等で話題にあげ、虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長が対応し契約書の細部に至るまで口頭でも説明を行い、理解され、納得いただいた上で、捺印をお願いしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での会話や面会時の家族に対しての談話の中でその都度話しを聞く機会を作っている。又、どのような苦言も遠慮なく言えるような、利用者と関係を作るよう、日頃からコミュニケーションをとっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態等、近況報告をしている。2ヶ月に1回、事業所便りを発行し、担当職員による通信では、利用者の健康状態、行事等の写真で報告している。金銭管理については、金銭出納簿を詳細に記録し、各家庭に郵送している。また、状態変化時は、その都度電話で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には積極的に声をかけ、意見や要望を聞くように心掛けている。また3ヶ月に1回、家族懇談会を実施し、自宅訪問、筋力強化、レクリエーション参加等、利用者、家族の要望に柔軟な対応をして、ケアの充実を図っている。玄関には苦情相談窓口を明示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は施設長を通じ職員全員の意見を把握し、直接、職員個々と会話する機会を作り、運営に反映させるように心掛けている。日々、活用している連絡ノートは業務外の事や、気づき、個人的なお願い、又、謝礼の言葉も書かれ、個人の意見、提案等を反映させるものとなっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や病院受診予定があるときは勤務時間を変更したり、残業時間を当て、利用者優先の柔軟な対応をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるために、運営者は、食事会に参加するなどコミュニケーションにつとめている。又、勤務シフトを決める時も職員の希望を取り入れ、働きやすいように組んでいる。職員が変わるときは、利用者のダメージを防ぐ為、引継ぎを充分に行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>職員の採用については、性別、年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。運営、管理者は人間関係や教育訓練に留意し、働きやすい環境作りに努めている。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>講師を招いて、全職員参加で人権教育を実施している。その内容についてはミーティングでフィードバックし、日々の支援の中で人権の尊重を実践している。</p>	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は全職員の希望や能力に応じて、外部研修や苑内研修を実施し、その記録や資料等を整備している。又、運営者は職員の資格取得に協力的である。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入している。協議会主催の学習会に職員を交代で派遣し、他グループホームと情報交換を行い、お互いの行事には職員、利用者を招待しあうなどの交流を深め、サービスの質の向上に繋げている。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1回のミーティング時に業務を離れた、職員個人の不安や心配事を聞く時間を作ったり、新職員の歓迎会等を利用して、話を聞いている。有給休暇についても、事業所との都合が合えば、自分のストレス解消のため、有効に使ってもらえるように配慮している。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護についての資格取得等の情報を伝え、資格取得者には給与に反映させることでやる気、向上心をもてる様努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず2名の職員で面接を行い、確かな情報を得るようにしている。本人の言葉や態度から真実の思いをくみ取るように話しかけを行う。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず2名の職員で面接を行い、本人と身近の家族の同席の上で話を聞いている。本人が同席して不都合な内容についてはご家族から話を聞く等の配慮も行う。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームの介護に対する考え方、出来る事、出来ないことの説明を行い、家族からの要望を充分に聞き、対応している。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族への事前面接を基本にしている。職員は利用者の自宅や病院を訪問し、利用者の状況等の把握に努めている。本人の利用開始前には体験入所や、見学等を薦め、家族と相談しながら安心感を持ち、雰囲気に馴染めるよう工夫している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は介護するだけでなく、人生相談や料理の味付け、野菜の切り方等、介護の中で利用者から教わることも多い。又、利用者同士で車椅子の介助をしたり、利用者と職員でお互いに感謝や労いの言葉かけをしながら、日常生活の中で支えあう関係を築いている。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の行動や言葉を良く観察しどんな事に喜びや楽しみを感じ、どんな事に哀しみや辛さを感じているのか、家族に今までの生き方をよく聞き、適切な判断の上、家族と一緒に対応できるように共に添う介護をしている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人の暮らしぶりの中で家族への思いの部分の言動があれば、通信で報告し、又、面会時に口頭で伝える等の方法で本人と家族の絆が深まるよう配慮している。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会いただいた友人や家族に対し、面会の継続や同伴の外出をお願いしたり、近況の報告をさせていただいている。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>話しの合う利用者同士を隣の席に座っていただいたり、逆に気の合わない利用者同士にはさりげなく離すよう、職員全員が把握して、トラブルが起きないように、よい関係が保たれるように生活全般で配慮している。又、難聴者等、コミュニケーションが難しい利用者については、近くで個々で話しかけるなどの対応をしている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居された方については異動先の病院や施設を訪問し、移動先の職員から情報を得たり、本人に面会して話を聞く等の対応をしている。家族に対しても電話等で連絡し問題があれば遠慮なく話してもらえ関係を続けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を日々の生活の中で聴き取り、困難な利用者については、状態や表情、行動を観察したり、家族からは生活歴を聞くなどして把握に努め、利用者本位に検討している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居時に本人や家族から詳細に聞きだし、性格や人柄についてもそれを重視して、対応できるようどんな小さい情報でも記録し、把握に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方については利用者個々に違いがあるので、対応が画一的にならないように、自分らしく自由に過ごしてもらえるように、本人の言動や家族の話しも参考にしてよく観察を行い、記録をして把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状態の変化に合わせた個別具体的な計画を作成している。月1回のミーティングで担当者が問題を挙げ、職員間で検討している。家族には面会時に事前に意見、要望等を聞き、参考にしていく。家族懇談会では十分な説明を行い、そこでも意見を聞いて、ケアプランの内容を了解された上で、署名、捺印をしていただいている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月に1回行っている。入居時や状態変化がある時は本人や家族、必要な関係者と話し合い、随時、介護計画の見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には詳細に行動や言葉の記録をして本人の本音を理解するようにしている。また介護記録とは別に連絡ノートを利用して職員全員の情報の共有を心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が病院で治療を受ける場合は通院介助を行ったり、入院した場合は頻繁に訪問して、医師、看護師、家族等と連携を図り、情報を共有して、早期退院に向けて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の生き生きサロンに参加させていただいたり、地区内の施設の行事や運動会に参加させていただくなどの協力体制は出来てる。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、本人や家族からの意向はなく、必要性もない。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や長期的ケアマネジメント等については今のところ本人の意向はないが、必要時の為に権利擁護の研修に参加して、職員全員に制度やしきみ、手続き方法について伝達し、周知を図っている。又、包括支援センターに出向き、必要時の、事業所としての対応の指導を受けている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人ひとりの希望するかかりつけ医の受診を支援し、その通院介助の方法、情報の伝達方法について、家族等と合意している。また、週1回、事業所かかりつけ医による訪問診察も支援している。利用者の状態によって受診支援を行い、体調の変化があれば家族と連絡をとり、その受診結果は必ず家族に報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修やミーティング等で、プライバシーや個人情報の取り扱いの対応を、日頃から話し合っている。職員は排尿誘導等さりげなく、声かけを行い、外から見えないようカーテンを設置するなどの工夫をして、利用者のプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事の内容、外出、欲しいものなどは、そのつど気持ちを伺い、自分で決めていただけるように、押し付けにならないような声かけをしている。可能な限り、希望に沿う様工夫、実践している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の希望や体調に配慮しながら支援している。起床や食事、散歩、買い物、歌を聴く等、利用者のペースにそって柔軟に支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については近隣の理髪店に来ていただいているが、利用するかどうかは本人の意向や家族の意向を聞いて決めてもらっている。又、外出時の服装等は個人の好みを十分に聞き、対応している。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事、作業等可能な利用者と職員と一緒に準備や片付けをし、またさりげなく介助を行いながら、同じテーブルで同じ内容の食事を食べている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時に嗜好については詳しく聞き、対応している。毎日出される食事内容やおやつは利用者の希望を聞き、食する量についても多すぎない程度に要望に応じている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない利用者については随時の排泄介助をおこない、チェックし、毎日の排泄パターンを知り、介助することで失敗をなくすようにしている。便様についても観察し、気持ちよい排便、排尿ができるよう主治医と連絡しながら支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日となっているが、本人が希望すればいつでも入浴できるように対応している。入浴拒否する利用者については、状態を見ながらさりげなく誘導して入浴していただき、清潔保持と楽しみの2つの意味を持つよう支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	暑がりな利用者や寒がりの利用者の個性をつかみ、エアコンで適度な状態を作り、ゆっくり、安心して休めるように調整し、又、こだわりの寝具など個々に合わせて利用してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の味見、洗濯物のしわのばしや畳み、菜園のみずやり等、1人ひとりの生活歴や能力を活かした役割等を支援している。職員は利用者に対して、感謝の気持ちを言葉で表すようにしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物時は預かり金を利用して、自分の好きな物を買ってもらうようにしている。付き添いのもと、自分で支払いをしていただくこともある。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮しながら、できるだけ散歩や外気浴を行っている。その他、利用者の要望に応じて、買い物や年間4回程度、ドライブ、花見等の計画をして、戸外に出かけられるよう支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間4回程度、気候のよい時期を見て利用者の体調に負担の掛からない距離の場所にドライブしている。(春、秋のお花見や買い物、ピクニックなど)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話も取り次ぎ、又、代理でかけ、直接お話ししていただいている。手紙についても希望があれば、便箋等の用意や投函もする。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間は8時までと日中も玄関は施錠しないで、自由に訪問ができる。玄関は窓で囲まれ明るく季節のオブジェや花を飾り、玄関外も花を植えて、入りやすいように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切の拘束をしていない。又、身体拘束についてはミーティング等で申し合わせ、してはならないことの周知は出来ている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。外出傾向のある利用者を把握して見守りを行い、外出したときは携帯電話を持参して、本人が納得いくまで付き添うようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間継続して利用者だけにならないよう職員の配置をしている。職員同士は入居者対応時も1人だけの利用者にとられることのないよう、声かけをし協力して利用者の安全に配慮している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な行動をする利用者については、職員全員がその状態を把握し、注意を怠らない。1人の行動のために、全利用者が犠牲とならないよう、出来る限り、個々別々の対応をするようにしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員がいつでも閲覧できるように介護についての参考本や資料を用意しており、又、ミーティング時にも話題にあげて啓発している。又、ホーム内で起こる、小さな危険事例は「ひやり、はっと記録」として残し、職員全員で防止対策を検討し、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、全員参加の勉強会で看護師から対応の仕方について指導を受けている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回事業所独自で避難訓練を行っている。消防署と連絡をとり立会をお願いした。近隣の方との会話の中でも、常に「何かあればよろしくお願ひしたい」旨の話をしている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時の状態報告や3ヶ月度の家族懇談会で説明を行っている。少しでもリスクの少ない対応策について話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録や連絡ノートを充分に活用して利用者のそれぞれの体調の小さな変化でも伝達し、情報を共有し、早急の対応ができるようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてはそれぞれの利用者が何の病気をもち、どのような治療をしているか常に把握に努めている。往診後の投薬時の説明書等は職員がいつでも見れるようにして、服薬ミスのないように、2人で確認をし、十分な注意をしている。服薬方法についても拒否のないよう、ゼリー状にする等工夫している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者は激しく身体を動かすことは難しいが、食事の後はすぐに横にならないよう配慮し、又ラジオ体操を日課に取り入れるなどで対応している。便のチェックは気をつけており、長期に排便がないときは、医師に指示受けをして適切な対応をしている。食事内容についても食物繊維を含んだ食材を使い、汁の中にミルクを入れる等の便秘改善の工夫をする。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自分で出来る方は見守りし、出来ない方は介助で口腔ケアをしている。ケア忘れがないように毎回チェックしている。月に2回歯科医の往診があり、歯科治療、ブラッシングの指導も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量と水分摂取量は、全利用者分を記録している。献立は職員が入居者の要望や職員の意見を聞き、栄養的なバランスにも気をつけながら、作成している。調理方法についても利用者の嗜好や状態を考慮しながら工夫し、管理栄養士にアドバイスしてもらっている。食す時の形状も個人に合わせて対応している。		
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルを作成し、全職員が同じ対応が出来るようにしている。又、勉強会等で対応の重要性を伝達する機会を作っている。流行しやすい時期は予防のための手袋やマスクを玄関において注意している。又、普段から消毒液を使い、予防に努めている。		
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、遅出、夜勤の職員が調理用具や布巾等を消毒し、忘れない様チェックを行い、衛生管理は厳重に行っている。食材についても賞味期限や生産元等に注意して購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く作られ、窓が大きく明るい。季節に応じて花や、オブジェを置き、又、玄関外部も小さいが花壇があり、落ち着いた雰囲気を作っている。玄関には手作りの看板を置き、家庭的な感じを与えるようにしている。		
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からの採光があり、カーテン等で光を調整し、随時換気を行っている。職員の話し声も適度で、行事等の写真を飾る等、家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール中央にソファを置き、自由に座れるようにしている。又、ホールの中に畳敷きのスペースを持ち、皆で洗濯物たたみや作業等、自由に使えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋式と和式の居室があり、カーペットを敷いたり、箆箆やソファ等、馴染みの家具を持ち込んでいる。ベッドの周りに身の回りの小物、生花、写真等を飾り、利用者それぞれの個性的な居室となっている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝には1回窓を開け放ち、換気をしている。エアコンの温度も利用者に合わせて設定しており、暑く感じるか、寒く感じるか、その都度聞きながら、調整している。臭いのこもりやすい、トイレや浴室は常に換気し、消臭剤も利用して職員が気を付けて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや壁などの要所には必ず手すりをつけ、利用者が安全に移動できるようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居間もない利用者には確実に覚えるまで、トイレの場所等には場所の表示をして混乱しないように対応している。夜間の居室も適当な明かりを付け、安心して眠れるようにしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や駐車場は気候の良いときはテーブルを出してお茶を飲んだり、レクをする場所となっている。近くには花壇があり、四季折々の花が咲いて、季節感を味わっていただくように心掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

当グループホームは利用者のうち5名の方が歩行困難な方です。本来なら、老人保健施設、特別養護老人ホームでの対応が妥当と思われる方でも、どのような障害があっても可能な限り、家庭に近い環境の中で暖かくおだやかに自分らしく生活していただきたいと職員一同同じ思いでお世話させていただいております。又、開設6年ということで重度の利用者が入居者定員数の半数を占め、移動、移乗に利用者の身体的苦痛を与えているのではとされていましたので、今年度より車椅子乗車対応型の軽乗用車を導入し、安全、安楽な介助が出来るようになりました。地域密着ということでは利用者2名の方が近隣から入居されてその御友人やご家族との関わりが深くなり、散髪も地域の方の御紹介で地区の理髪店にお願いしたことで交流も増えました。地域の行事にもすすんで参加し、当グループホームの行事にお招きしています。地域の方に親しまれ、また地域に役立つ施設になるようにと考えております。福祉全般のプロとして地域の皆様が相談していただけるよう今後も職員一同勉強してまいります。